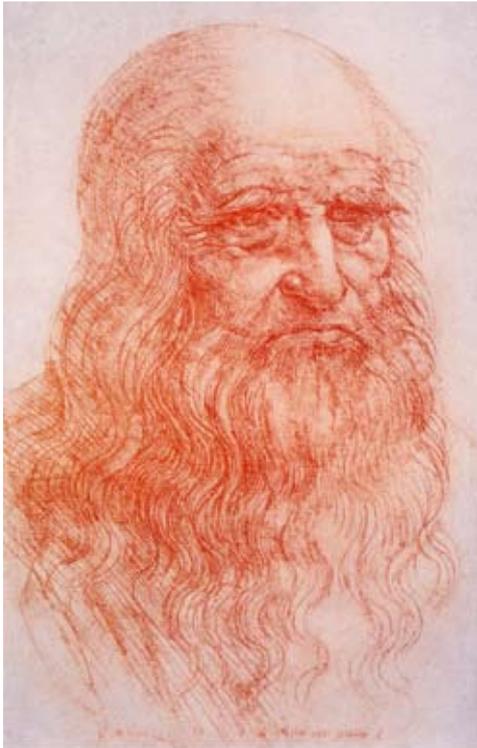


1. 裾分コレクションを保存したい

レオナルド・ダ・ヴィンチ (1452-1519) はイタリアルネサンスにおける万能の天才として知られ、「モナ・リザ」や「最後の晩餐」等の絵画作品で有名である。レオナルドにはそれ以外にも約 7600 ページにのぼるメモ (マヌスクリプト) やスケッチ (素描・素画) が残されている。これらの研究は写真製版による複製技術 (ファクシミリ) が整ってからようやく本格的に開始されたといってよく、その歴史はまだ 100 年も経過していない。



レオナルド自画像とされている
(トリノ、王室図書館 1512-1515 頃)

遺されたマヌスクリプトが明らかになるにつれ、従来知られていたレオナルド像に変化が生じてきた。そこには「天才レオナルド」ではなく「努力の人レオナルド」が現れている。超人への無条件な絶賛から努力への共鳴と理解に関心が推移するのを見るであろう。レオナルドが何に関心を示し、どのように観察し、どのように理解したかは前述したように研究が端緒についたばかりでその全体像はまだ明確ではない。

レオナルドを真に理解しようとするれば、彼の絵画作品のみならず、彼の書き残したマヌスクリプトや素描・素画を検証する必要がある。しかし、これらの研究の現状は乏しく、全てのファクシミリが整っている所といえば、国際的にもカリフォルニア大学ロサンゼルス校のエルマー・ベルト図書館と日本の個人蔵書である裾分コレクションの二ヶ所しかないのである。

学習院大学の裾分一弘名誉教授が生涯をかけて収集されたコレクションが先生の御高齢と引き継ぐ者がいないことで、海外の古書商がコンタクトを図ってきており、分散・競売の処分を受けようとしている。なんとか日本の研究環境に保存できないだろうか。私のこの強い願望も、裾分コレクションが単にファク

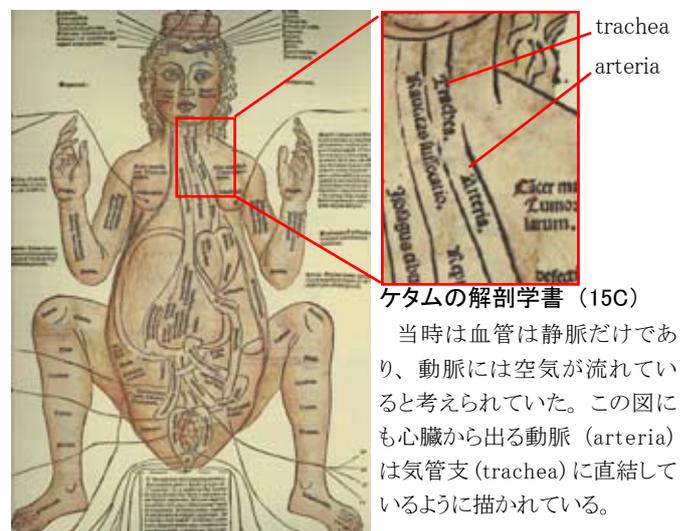
シミリの完全揃いに留まらず、1500 年代のレオナルドに関係する古書をはじめ現在に至るレオナルド研究の文献を揃えていることにある。その多くは稀観本であり、ひとたび分散してしまえば再び収集することは不可能だからである。

2. 裾分コレクションの特長

レオナルドのメモは 1500 年代のトスカナ地方の方言で書かれており、レオナルドが左ききであったせいにより文字は右から左に向かって書かれ、しかも鏡文字となっており、加えてレオナルド独特の癖文字や省略法があり、極めて読みづらいマヌスクリプトとなっている。ファクシミリ出版の歴史は、レオナルドの鏡文字を読める活字に起こすこと (翻刻) の修正の歴史でもあった。つまり、ここ 100 年の学術がいかなる努力をし、それらの成果がいかなるものであったかも知らねば、ファクシミリを眼前に置いただけでは取り付くまがないのである。レオナルドを研究するためには、ファクシミリの全部門の全ての版が揃っただけではなく、これまでのファクシミリ研究の学術書が揃っていなければ、研究は開始できないのである。

しかしそれでもまだ十分ではない。レオナルドが置かれたルネサンス時代の状況が分からなければ、レオナルドの具体的な理解には程遠いであろう。例えば、レオナルドの手稿の中には、レオナルドの蔵書一覧が出てくる。または、彼のマヌスクリプトの中には、彼の読書の書き抜きが出てくる。レオナルドは大変な読書家とその範囲はアリストテレスから当時の数学書に至るまで実に幅が広い。レオナルドの学識を理解しようとするれば、ファクシミリだけではなく、彼が参照したであろう当時の学術書にも調査の対象は広がるであろう。別の例を挙げれば、レオナルドの解剖学を知ろうとすれば当時の解剖学がいかなるものであったかを知らねば、レオナルドの解剖学は理解できないのである。

つまり、ファクシミリをはじめレオナルドに直接関わった研究史だけではなく、レオナルド周辺の当時の古資料 (例えば、チェンニーニ、アルベルティ、ギベルティ、フランチェスカ、パチョーリ等の芸術文書、ミケランジェロの詩集・書簡集、ヴァザーリ『美



ケタムの解剖学書 (15C)

当時は血管は静脈だけであり、動脈には空気が流れていると考えられていた。この図にも心臓から出る動脈 (arteria) は気管支 (trachea) に直結しているように描かれている。



レオナルドの心臓（ウインザー解剖手稿 19071r）

レオナルドは「心臓に空気が流入するか否か」と見出しをつけて「肺にふいごを取り付けて空気を送ってみても、気管支は膨れるが、空気は心臓に入っていない」（動脈の中に空気は流れていない）と述べている。この事実はハーヴェイの血液循環（1628）まで待たねばならなかった。（同じ解剖図譜でも、ケタムとレオナルドでは精密さと内容の違いは次元が異なる）

術家伝』の初・二版等々に及ぶ）も合わせ参照する必要がある。

ファクシミリ、古資料、研究史の全ての揃ったレオナルド・コレクションが裾分コレクションである。その冊数は五千点にのぼる。これほどの質と量を誇る収集は世界にも例を見ない。正に最高のコレクションである。

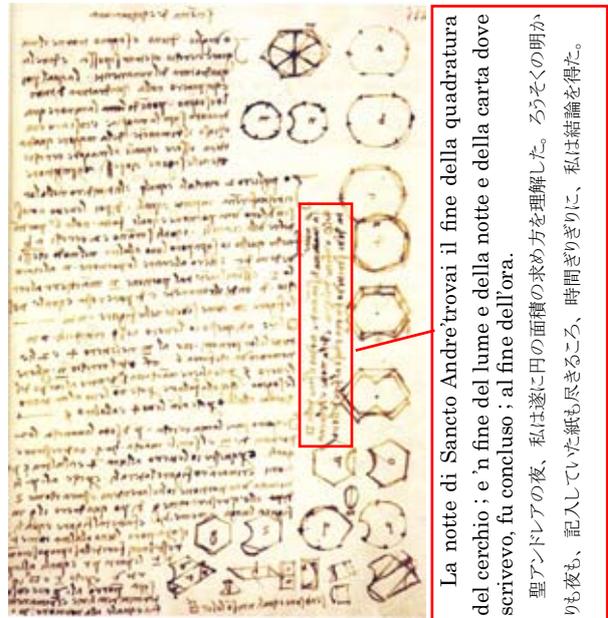
3. レオナルド研究の対象は現在事象である

レオナルド研究は過去の一個人の検証に留まらず、彼を研究することを通して、「観察とは何か」「思索とは何か」「歴史とは何か」を訴えかけるのである。これらは既に過去の事象ではなく、「現代への反省」や「現代への癒し」という現在の事象である。

レオナルドは天才というよりは努力の人であると前述した。

「聖アンドレアの夜 [1504.11.30]、ろうそくの火も夜も紙も尽きるところ、時間ぎりぎりに円の面積の求め方を理解した。」レオナルドはめったに日付を書かないが、余程うれしかったのか「聖アンドレアの夜」と書いている。ファクシミリの各所にレオナルドは幾何学の図を描いており、「幾何学の素養なき者は画家にあらず」と言っている。Artは学術（Scienza）であると自分の仕事に誇りを持っていた。これら業績の結果を「天才」で片付けてはいけない。レオナルドの理解の鍵と、我々を縛る時代の拘束を解く鍵は、レオナルド資料群の中にある。

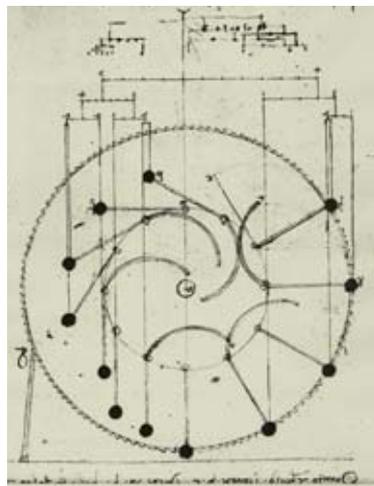
裾分コレクションを日本国内に留め置く声をあげたいと思う。皆様の共感を是非とも得たいものだ。（終）



La notte di Sancto Andre trovai il fine della quadratura del cerchio ; e 'n fine del lume e della notte e della carta dove scrivevo, fu concluso ; al fine dell'ora.

聖アンドレアの夜、私は遂に円の面積の求め方を理解した。ろうそくの明かりも夜も、記入していた紙も尽きるところ、時間ぎりぎりに、私は結論を得た。

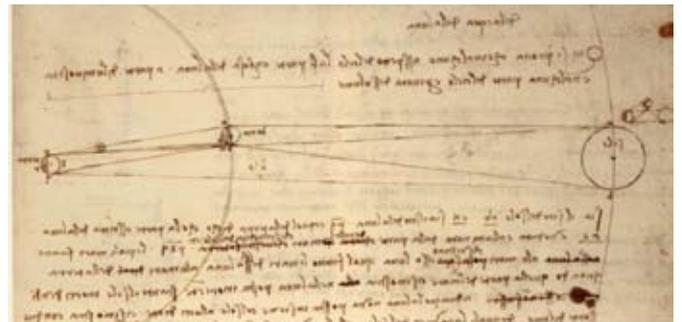
「私は遂に円の求積法を理解した」
（マドリッド手稿 II 112r）



永久運動への考察

（マドリッド手稿 I 148r）

レオナルドは再三にわたって永久運動は実現不可能と言いながら、またもや思い出したように再挑戦を試みている。左図はモメントを利用した工夫である。



月の満ち欠けに関する考察（1505年）（レスター手稿 7r）

地球を中心に月と太陽の軌道が描かれている。一見、天動説を思わせるが、別の手稿（ウインザー解剖手稿 12669v）に「地球は動かない」と記述がある。コペルニクス（1543）よりも早い記述である。

裾分コレクションのレオナルド関係のものは教授の近著『レオナルドの手稿、素描・素画に関する基礎的研究』（2004、中央公論美術出版、東京）の文献目録に掲載されている。

永田歯科医院 Tel : 03-3929-4181

E-Mail : kazuhiko@bgn.co.jp